

淀川流域委員会様

2004年9月16日

昨日下午記の内容文書を近畿地方整備局琵琶湖河川事務所へ送付しましたのでお知らせしておきます。貴職としてもご検証ください。よろしく申し上げます。

宇治・防災を考える市民の会 事務局次長 梅原 孝

近畿地方整備局琵琶湖河川事務所 様

日頃の奮闘に敬意を表します。8月28日の京都市内での「天ヶ瀬ダム再開発・調査検討内容説明会」において会場質問をさせていただきましたが、尚、下記の事項について理解しがたい点がありますのでご回答ください。

記

1. 琵琶湖沿岸の浸水被害の予測について、「S36年6月洪水の1.0倍比較で現況で家屋で7戸、整備後には0になる。」などの報告がされました。会場質問で『浸水予想箇所の大半を占める江ノ島付近を会で現地調査しましたが、現地は県が許可した宅地造成高（BSL+1m）ではなくBSL+70cmであることからH7年にも浸水被害が発生したことがわかりました。県の許可どおりに開発されていれば浸水被害が現況でも発生しないことになるのでは。』とさせていただきました。これに対して、貴職の回答は「大阪湾から一体のこの地域の特性」のような回答がされました。もう少し正確な回答をお願いします。
2. 上記「S36年6月洪水の1.0倍比較」について浸水家屋と田畑のみの報告となっていますが、他に、初期水位、浸水日数、荒堰の放流量、降雨量、降雨日数について、またS36年6月の実数と現況についても同項目についてご回答ください。
3. 宇治川にはS34年8月に1270ト、S36年10月には1000トの流量が流れています。この両年の上記の項目での琵琶湖浸水被害の状況と予測についてご回答ください。
4. これまで浸水被害の比較は、S47年7月とH7年5月でよくされてきました。この両年において質問2と同様の項目でご回答ください。
5. 貴職の整備計画基礎案においても「狭窄部は開削しない。上流部で対応する」となっています。塔の島付近など宇治川も狭窄部と言いながら、なぜ宇治川だけにこの方針が適用されないのか。もう少し正確な納得できる回答をお願いします。

6. 事業費比較において、「琵琶湖沿岸の内水排除ポンプ設置などの費用は、約1750億円で天ダム再開発は、500億円程度だから天ダムが優位」と報告されましたが、宇治川堤防強化費用が全く計上されていません。既設施設の改修費用もみていません。含めて判断されるべきと考えます。
7. 再開発調査検討事項は38項目とされていますが、8月28日の時点で「8項目しか調査完了」とされていません。にもかかわらず、後期放流として10日間以上にわたって続く宇治川1500トンの放流のみを先行してすすめるのは、「上下流の相互理解」の原則からみて理解、納得ができません。全ての項目で調査完了をみて総合的に判断されるべきと考えます。
8. 天ヶ瀬ダム周辺の金井戸、志津川地区で発生している「低周波振動被害」について、全く解決していません。28日の説明会では「再開発云々以前の問題。現状で起こっているのなら早急に改善すべき問題」と貴職から説明を受けましたが、現在の状況についての認識をご報告いただくとともに、早急に対応、解決していただきたいと思えます。

以上